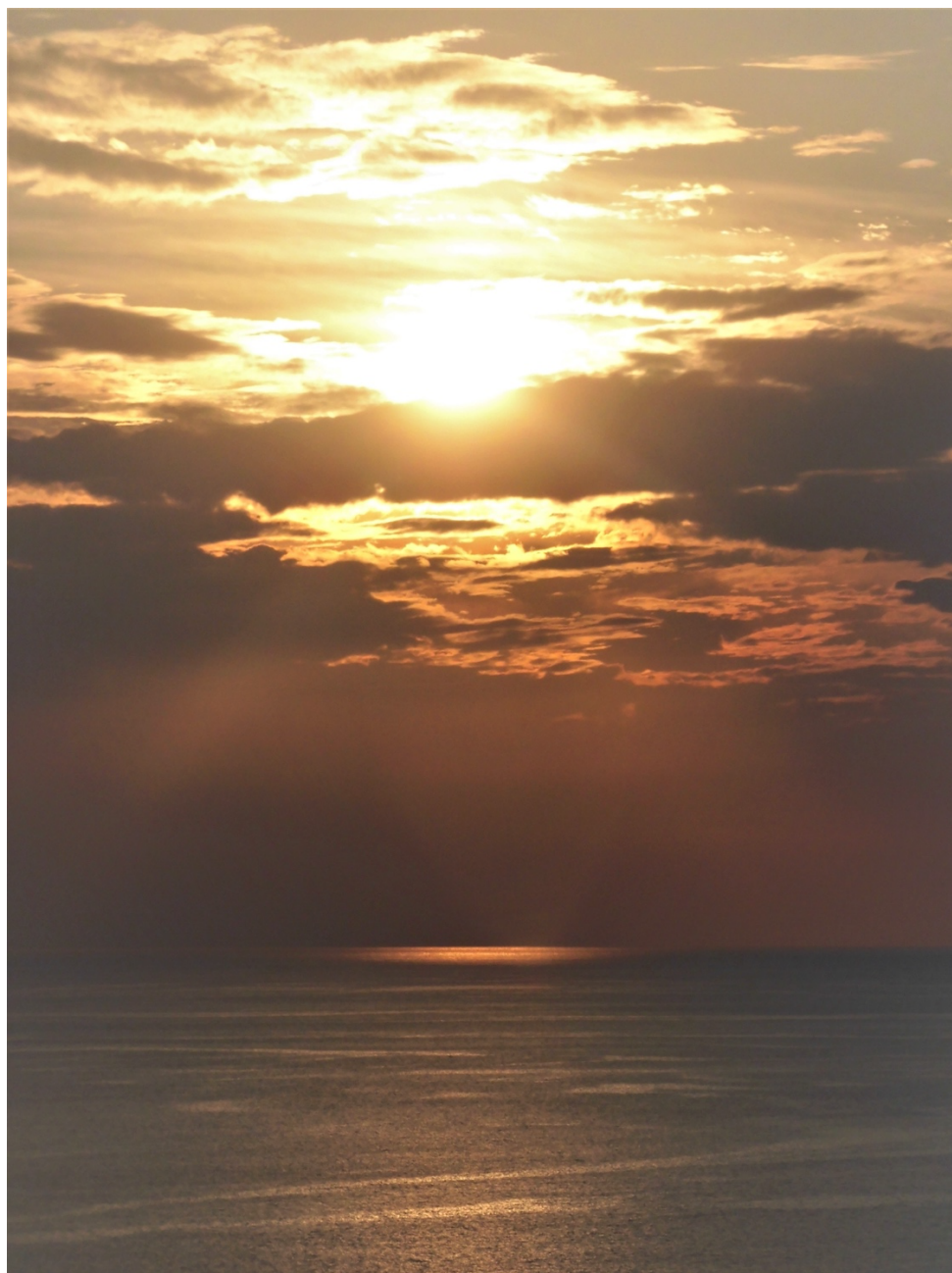


第65回 2021年度版「自助、共助、公助」

IT生

先日、テレビで某有名キャスターの首相インタビューをみていて、ひっくりかえりそうになった（新婚さんいらっしやいの桂三枝のように…）。

キャスターは、首相の会食について触れ、「会食は5人以下でといわれているなかで、首相がそれより多い人数の会食に参加していたとなると、われわれ国民はどうしたらいいのでしょうか？」



天孫降臨の地にさす日の光。新年の願掛けは『小さいことからコツコツ』と

このシーンにでくわして、感じた疑問はふたつ。

- ・首相ら政権幹部の会食と、一般国民の会食を同一視すべきなのか？
- ・コロナ対策で「3密回避、マスク、手洗い」と分かり切っていることを、「国民はどうしたらいいのか？」と首相に判断を求めるのか？

このやりとりをめぐって当然のことながらネット言論はかまびすしい。

それみたことかと、首相が国民に提示した「自助、共助、公助」社会づくりにチャチャをいれる。「国民に努力を求める前に公助を発揮すべきなのではないか」…。

そういえば、倉敷市の防災検討委員会でも「地域共助の重要性」が示された時、ある記者は座長の有識者に向かって言い放った。「役所のいいのがれではないか。市民はもっと役所に頼りたがっているのではないのか」。前述の有名キャスターと同じ思考回路である。

「一億〇〇化」といったのは、ジャーナリストの大宅壮一だが、三島由紀夫も看破したように、近ごろの災害多発の状況下で国民的規模のヒステリー現象が深化しているのだろう。

2021年は、米国で新体制が始まる。それに伴い、国際環境はコロナ拡大とあいまって、ある種に危機をはらみながら複雑化していくといわれる。せめて、「3密回避、マスク、手洗い」ぐらいの単純作業を守ることは、けっして小さいことではないはずだ。

小さいことからコツコツと。大きな危機にむきあえばむきあうほど、こうした不断の努力と自律的な判断力が求められる。せめてそれぐらいのことは…、というのが新年にむけての願掛けになりそうだ。

(令和2年12月)